肌を刺すような冷たい外気が和らぎ、吹く風にも春の訪れを感じるようになりました。

この良き日に、私たちは東京立正短期大学を卒業します。

振り返ってみると、東京立正短期大学で過ごした2年間は、コロナ禍により失われた学生生活を取り戻す2年間でもあったように感じます。コロナ禍に私たちは高校生活3年間をコロナ禍による制限の中で過ごしました。オンライン授業や学校行事の中止、部活動の制限、一人で食べる昼食、思い描いていた高校生活とはかけ離れたものでした。そのため、コロナ禍による規制が緩和され、対面授業や学校行事、サークル活動、友人と食べる昼食などの短期大学生活を当たり前に送れるようになったことは、私たちにとって大きな喜びでした。そしてこの充実した2年間は、多くの方々の支えによって成り立っているものだということを強く実感しています。

私は心理学を学びたいという強い気持ちと、編入学をするという大きな目標を胸に、東京立正短期大学に入学しました。高校と大きく環境が変わり、慣れないことが多く不安でいっぱいだった入学当初、教職員の皆さまは、そのあたたかい雰囲気と親しみやすさで私たちの不安を優しく取り除いてくださいました。講義では、私たちが理解しやすいよう座学だけでなくグループワークや実践的な時間を取り入れてくださったり、質問をした時は非常に丁寧に対応してくださったりするなど、私たちが意欲的に学ぶことができる環境を常に整えてくださいました。「学びたい」

という気持ちに最大限応えてくださる教職員の皆さまに出会えたおかげで、私たちは心ゆくまで学びを深めることができ、多くの知識や視点を身につけ更に豊かな人間に成長することができました。学校行事やサークル活動では、私たちの自主性を尊重しつつも、私たちのやりたいことを実現できるよう、時間を惜しまずさまざまなサポートをしていただきました。「私たちは学生の皆さんがやりたいことをとても応援しています。なので、たくさんお手伝いさせてください」と声を掛けていただいたことは忘れられない言葉の一つです。

どのような時でも私たちに優しく寄り添い、誠実に向き合ってくださった皆さまの存在は、私たちにとって大きな心の支えでした。そして、この先の人生でも、皆さまからいただいたあたたかさは、私たちを支えてくれると思います。

東京立正短期大学はコミュニケーションを非常に重要視しています。コミュニケーションをとることは、相手や自分を傷つけてしまう可能性を含んでいます。傷つくこと、傷つけてしまうことを恐れ、あえて他者と関わらないという選択をとる人もいるでしょう。しかし私は、2年間の短期大学生活で多くの人々と関わり、他者と関わること・他者を理解しようとすることの尊さを深く感じました。穏やかな交流の中で、誰かと心が繋がっている感覚に幸福を感じたこと、互いを理解しようと言葉を交わし、異なる価値観や考え方に触れたことで新たな自分を発見したこと、相

手の知らなかった一面を知ることができた時、そして自分のことを受け入れてもらえた時の喜び、すべての経験が私の人生の財産です。

いつも私たちを支えてくださった学長先生をはじめとする教職員の皆さま、学生の代表としてさまざまな施策を行ってくださった紫友会役員の皆さま、共に学んできた同期生の仲間たち、そして東京立正短期大学に関わるすべての皆さまに、改めて御礼申し上げます。

これから先、私たちは別々の道に進みます。そこでは多くの苦労や困難が待ち受けていることでしょう。ですが、本学で学んだことや経験したことを思い出し、必ず立ち向かっていくことができると信じています。そして、これまで支えてくださった皆様への恩返しのつもりで、世の中の人々の役に立てるような立派な社会人に成長したいと思っております。

本日はこのような大きな舞台で、卒業生代表という名誉あるお役目をいただき、大変光栄なことであると、感謝しています。

最後に、東京立正短期大学の益々のご発展と、皆様の健康をお祈りし、卒業生代表の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

令和七年三月十七日

卒業生代表